

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里市 中学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本市生徒の調査結果

本市生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領における第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

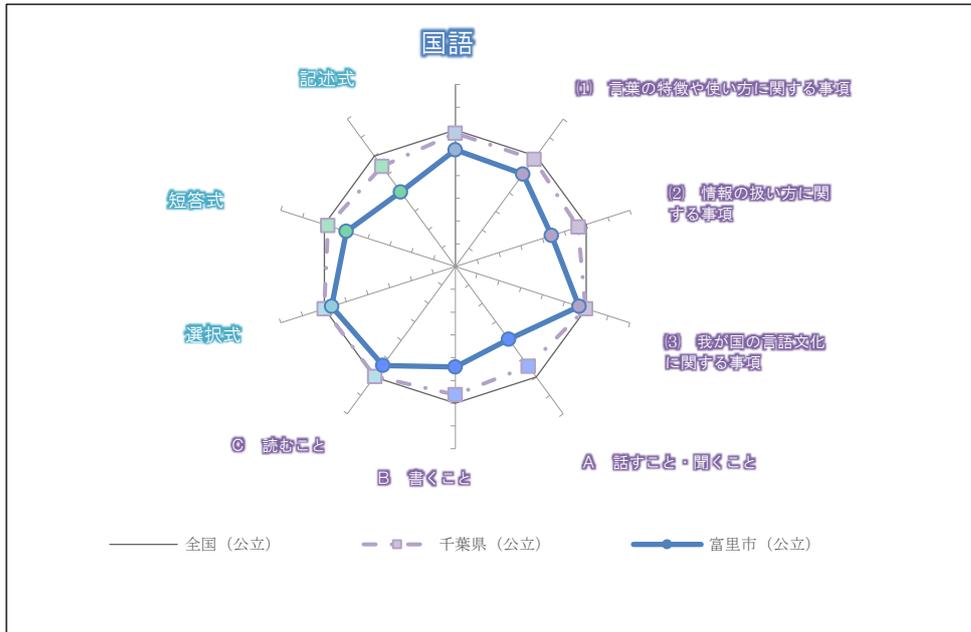
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



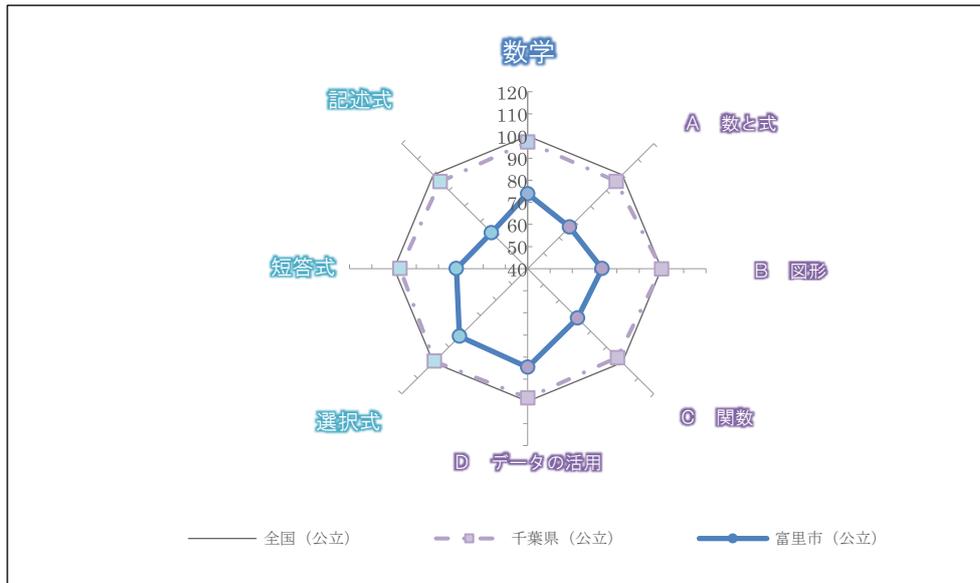
【特徴と現状】

- ・全体の正答率は、全国平均を若干下回りました。
- ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと、文脈に即して漢字を正しく書くことは概ねできていました。
- ・文脈に即して漢字を正しく書く問題について、ほぼ全国平均並の正答率でした。
- ・全国平均と比較し、記述式の問題の正答率が低くなっています。
特に無解答の割合が非常に高い傾向があります。
- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題があります。
- ・全国平均と比較し、表現の技法に関する問題の正答率が低くなっています。比喩、倒置、体言止めなどの意味や用法を適切に理解が不十分でした。

【改善方策等】

- 自分の考えが分かりやすく伝わるように話すために、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することができるように指導してまいります。
- 書いた文章を互いに読み合う際には、読み手からの助言を踏まえ、自分が書いた文章のよい点や改善点を見いだすことが大切です。読み手は具体的な部分や事柄を捉えて助言すること、書き手は自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得るように指導していく必要があります。今後も、引き続き学校で丁寧に指導してまいります。
- 「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現技法をその意味や用法と結びつけて理解し、話や文章の中で使うことができるように指導してまいります。

数 学



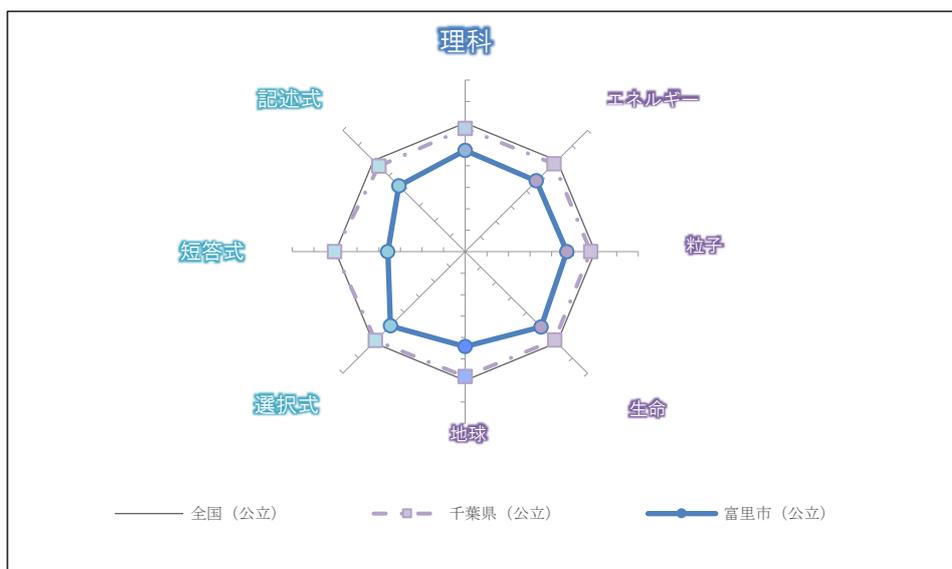
【特徴と現状】

- ・全体の正答率は、全国平均を下回りました。
- ・領域別では「数と式」「図形」「関数」の理解に課題があります。
- ・問題形式別では記述式の問題の正答率が低くなっています。特に無解答の割合が非常に高くなっています。
- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味について概ね理解することができています。
- ・一次関数の変化の割合の意味を理解することに課題があります
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。

【改善方策等】

- 「数と式」において、数学的な活動を通して、数量に関する基本的な技能の向上を図り、正しく問題解決できるようにしてまいります。また、練習問題を解く活動を通して十分な理解の定着を図っていただけるように指導してまいります。
- 一次関数の指導に当たっては、 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるように、 x 、 y の増加量やその割合を調べる活動を通して、変化の割合の意味を理解できるように指導してまいります。
- 図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を、筋道立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えても予想したり事柄が成り立つか確かめたり、予想した事柄が成り立つための条件を見いだしたりする学習に取り組んでいきます。

理 科



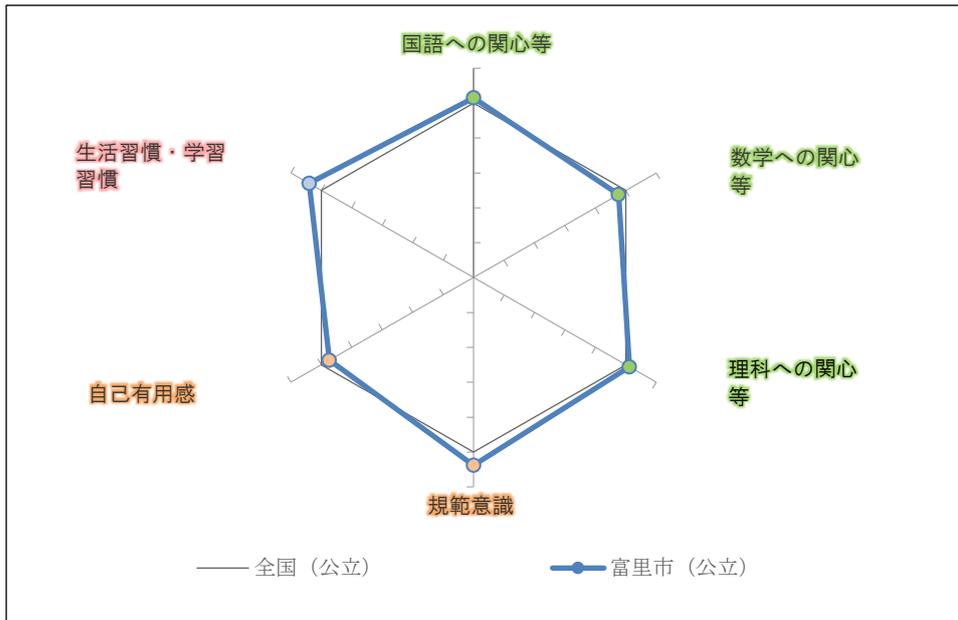
【特徴と現状】

- ・ 全体的な正答率は全国平均をやや下回りました。
- ・ 領域別では「エネルギー」、「地球」を柱とする領域に課題が見られました。
- ・ 動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕事と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈するという問題は概ねできていました。
- ・ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する問題に課題が見られました。
- ・ 化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみのおおもととして必要なものを分析して解釈することに課題が見られました。
- ・ 未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈する問題に課題が見られました。

【改善方策等】

- 物体に働く重力とつり合う力を矢印で表す学習活動を充実させるために、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表す学習をしていきます。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学変化を粒子の保存性に着目し分析して解釈する学習に取り組んでいきます。
- 動物の外部形態を生活場所や移動の仕方などと関連付けて分析して解釈する学習活動を行っていきます。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- ・生活習慣・学習習慣、規範意識の質問項目について全国平均よりも高い傾向があります。
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げると回答した生徒の割合が高い傾向があります。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと考えている生徒の割合が高い傾向があります。
- ・人が困っているときは、進んで助けると回答した児童の割合が県平均と比較して高い結果となりました。
- ・1日当たりのテレビゲームをする時間、携帯電話、スマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が県平均と比較して長い傾向があります。
- ・家庭学習をする時間が県平均と比較して短い傾向があります。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎、基本的な内容を確実に定着させ、それを基にして、思考力、判断力、表現力を育ていけるように学習指導を充実させていきます。

一方で学校の授業をベースとして、家庭学習を充実させることも学力向上のために不可欠なことであると考えます。また、家庭での生活習慣が学力に影響を与えることが明らかとなっています。

以上のことから、家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの学力向上を図っていくことが求められます。引き続き、各家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。